

平成13年度事業報告

事業記録

| 日 付 | 内 容 |
|-------------|--|
| 平成13年 4月 1日 | 「黒潮生物研究所」着工 |
| 4月17日 | 「黒潮生物研究所」起工式 |
| 同 日 | 平成12年度第2回評議員会 |
| 4月24日 | 檜西・姫ノ井小学校遠足(総合的な学習の時間): 講師派遣 |
| 4月25日 | 機関誌 CURRENT Vol. 2, No. 1 発行 |
| 5月8～10日 | 東京大学総合博物館にてヤギ類標本整理(岩瀬) |
| 5月24日 | 大月町立檜西小学校にて授業: 講師派遣 |
| 6月12日 | 土佐清水市立三崎小学校にて講演: 講師派遣 |
| 6月28日 | 土佐清水市立貝の川小学校にて授業: 講師派遣 |
| 7月 2日 | 大月町立檜西小学校 野外活動: 講師派遣 |
| 7月 3日 | 平成12年度年報発行 |
| 7月 6日 | 海水取水管敷設工事開始 |
| 7月10日 | 大月町西泊及び串本町田子にてミドリイシ類一斉産卵: 採卵 |
| 7月14日 | 竜串ボランティアグループ研修会にて講演「クラゲの話»: 講師派遣 |
| 7月21日 | 串本町田子にてミドリイシ類一斉産卵: 採卵 |
| 7月25日 | 機関誌 CURRENT Vol. 2, No. 2 発行 |
| 9月 6日 | (高知県南西部水害) |
| 9月28日 | 堺市三宝の研究室閉鎖、黒潮生物研究所に引っ越し |
| 9月29日 | 第10回黒潮実感センター海洋セミナー大月「サンゴの害敵駆除について～事例報告～」(岩瀬) |
| 10月 5日 | 大月町尻貝及び土佐清水市竜串の海中公園地区における水害対策検討開始 |
| 10月16日 | 研究所海水取水開始 |
| 10月18日 | 平成13年度第1回理事会 |
| 同 日 | 平成13年度第1回評議員会 |
| 10月19日 | 「黒潮生物研究所」落成・落成記念パーティー |
| 10月23日 | 研究船「つきなだ」進水・進水祝い |
| 10月25日 | 機関誌 CURRENT Vol. 2, No. 3 発行 |
| 11月2～4日 | 日本サンゴ礁学会第4回大会(沖縄: 那覇) |
| | 「高知県大月町に開所した黒潮生物研究所の紹介」(中地: 口演発表) |
| 11月 8日 | 愛媛県西海町サンゴ移植事業開始 |
| 11月16～18日 | 第12回日本ウミガメ会議(宮崎: 高鍋) |
| | 「幡多地域の海岸環境とウミガメの上陸・産卵状況」(田中: 口演発表) |
| | 「高知県大月町に開所した黒潮生物研究所の紹介」(岩瀬: 口演発表) |
| | 「鹿児島県吹上浜のクロマツ海岸林衰退がアカウミガメの上陸・産卵 |

| 日 付 | 内 容 |
|-------------|--|
| | に及ぼす影響」(田中：ポスター発表) |
| 11月24日 | 黒潮生物研究所紹介ビデオ上映会 |
| 12月 1日 | 竜串海中公園地区の保全活用に伴う竜串集団施設地区の管理方針検討調査開始 |
| 12月13日 | 大月町立檜西小学校にて授業：講師派遣 |
| 12月17日 | 理事長・秋山ステラケミファ専務取締役来所：西泊区民と懇親会 |
| 12月20日 | 宿毛ロータリークラブ例会にて講演「研究所の紹介」(中地) |
| 平成14年1月7～8日 | サンゴ礁モニタリングワークショップ(環境省主催)出席(岩瀬) |
| 1月25日 | 機関誌 CURRENT Vol. 2, No. 4 発行 |
| 1月31日 | 足摺宇和海国立公園グリーンワーカー事業(尻貝水害対策)開始 |
| 同 日 | 平成13年度第1回臨時理事会 |
| 同 日 | 平成13年度第1回臨時評議員会 |
| 2月 5日 | 足摺宇和海国立公園グリーンワーカー事業(竜串水害対策)開始 |
| 2月16～17日 | 京都大学瀬戸臨海実験所にてヤギ類標本整理(岩瀬) |
| 3月10日 | 竜串ダイビング協議会講演会「サンゴの一生」(岩瀬) |
| 3月12日 | 竜串海中公園地区の保全活用に伴う竜串集団施設地区の管理方針検討調査検討会(岩瀬) |
| 3月30日 | 足摺宇和海国立公園大月地区パークボランティアの会サンゴ移植に協力 |

事業の内容

【研究所の建設】

財団法人の事業所である「黒潮生物研究所」の建設は、平成12年11月に山本設計株式会社(高知市)に設計を発注し、3月末までに設計を終了した。平成12年3月23日に大月町建設協会事務所において、町内 A 級3業者による入札を行い、株式会社山本建設(大月町)が落札した。落札価格が予算を若干上回っていたため山本建設社長と協議の結果、当方の予算通りの金額で請け負ってもらうことになり、4月1日に建設予定地の整地をはじめた。4月17日には起工式を行い、9月末には本体建物は竣工。その後、飼育室の水槽設備工事や観測機器の据え付け工事、海水取水設備工事などを行って、10月19日に落成式及び落成記念パーティーを研究所で行い、使用を開始した。

研究所は鉄骨造2階建、敷地面積788.23㎡、建築面積346.20㎡、床面積640.89㎡で、1階には生物飼育室(実験水槽)、レクチャールーム(50人程度収容)、ウェット研究室(海水、冷温水、実験台、顕微鏡類、冷凍冷蔵庫、ガラス器具等)、写真暗室(白黒写真現像焼付器具)、作業室(工具類、作業台)、機械室(海水取水設備)、トイレ、倉庫が、2階にはドライ研究室(コピー機、コンピュータ、プリンター等)、書庫、標本庫、応接室、宿泊室(9畳和室、6畳洋室)、台所(調理器具、食器類)、食堂、シャワー等がある。

【研究関係】

1．造礁サンゴの飼育技術と増殖技術の確立について(担当：林)

造礁サンゴは生育環境の詳細が明らかにされていないため、生活史全般にわたる飼育は困難であると考えられている。当財団のメインテーマとして造礁サンゴの生育環境を解明し、その飼育技術と増殖技術を確立することを目指して研究を進めている。なお、本研究は財団の設立準備室としてステラケミファ(株)に設けられていた海洋生物研究室で1997年から開始している。

平成13年度は、7月10日に大月町で、7月10日及び21日に串本町で一斉産卵したミドリイシの受精卵を採集し、水槽内での飼育、育成を試みた。卵発生から幼生の定着、幼群体の形成までの期間については既に飼育技術がほぼ確立されており、今年度は1年間100群体以上の生残を目指して飼育環境管理を行ったが、大月町に建設した研究所の海水取水設備の完成が予定よりも遅れ、研究室の引っ越し時に新鮮な海水の常時供給が不可能であったことなどにより、研究室の引っ越しを行った9月下旬から10月上旬の間に多数の幼体が死亡し、年度末までに全数が死滅した。

2．大和川の水門付近にすむミシシippアカミミガメに関する調査(担当：中地)

堺市と大阪市の市境を流れる大和川下流には、堺市の下水処理場処理水が流入する水門がある。この水門付近にはミシシippアカミミガメが生息していたので、水温などの環境調査及び生物調査を行った。水門付近は処理水の流入によって水温は冬でも15℃以上を示しており、水深が深く、地形も複雑でシェルターとなる構造物が多いことがわかった。冬でも活動限界以下に水温が低下しないこの場所は、ミシシippアカミミガメにとって非常に好適な環境であると考えられた。捕獲した個体には特殊な水温環境が成長や成熟にどのような影響を及ぼしているかをさらに調査するため標識を付けて放流した。調査結果は、「大和川の水門にすむカメ」としてCURRENT, Vol. 1, No. 3に掲載した。

3．大月町榎西海岸におけるヒメアサリの生殖周期(担当：中地)

大月町西泊の潮間帯に産する二枚貝類の個体群維持機構を明らかにするための研究の一環として、ヒメアサリの年間を通じたサンプリング、生息数調査などを行った。平成13年5月から月1回の調査を行い、個体数や殻長組成の変化を調べると共に、組織観察用としてサンプルを収集した。今後も調査を継続し、得られたサンプルの組織学的観察を進め、配偶子形成過程と生殖周期を明らかにしていきたい。この研究の成果の一部は、「榎西海岸のヒメアサリについて」としてCURRENT, Vol. 2, No. 2に掲載した。

4．ウミガメの標識放流(担当：田中)

ウミガメ類の行動を解明する目的で、土佐清水市貝の川と大月町古満目の大敷網に混獲された24個体のアオウミガメの各部の計測を行い、標識を装着して放流した。装着した標識は日本ウミガメ協議会が配布している国内の標準標識で、再捕された場合には日本ウミガメ協議会を通じて情報が送付される。

5．幡多地域のウミガメの上陸・産卵状況調査(担当：田中)

高知県幡多地域のウミガメの上陸・産卵状況に関して、産卵期間である5月から7月の期間に砂浜の調査を行った。同時に聞き取り調査も行い、現在の上陸状況だけでなく、過去の状況に関する情報を得ることができた。この研究の成果の一部を日本全域のウミガメ上陸産卵状況調査の一環として日本ウミガメ協議会に報告した。

6．幡多地域の海岸環境調査(担当：田中)

ウミガメの産卵地の把握や産卵状況の調査を行っていく上で、どこにどのような浜が存在するかということは、研究の基礎となる情報である。また、海岸線の環境を把握することによって、ウミガメだけでなく様々な生き物の調査をする上で基礎となる情報を得ることができる。今年度は、宿毛市の福良川から大方町の吹上川までの延長約126kmの海岸線を対象に、浜の環境を調査した。浜の高さ、奥行き、長さ、堆積物の粒径組成を調査項目とした。その結果、この地域の浜はいくつかのタイプに分けることができ、地域によって特性があることが明らかになった。また、浜では植生調査も行い、来年度以降に海岸植物の調査を行う上での基礎的なデータを得ることができた。この研究の成果の一部は、11月に宮崎県高鍋町で開催された、第12回日本ウミガメ会議において「幡多地域の海岸環境とウミガメの上陸・産卵状況」として口演発表した。

7．海藻相調査(担当：田中)

幡多地域の動植物相調査の一環として、沿岸に生育する海藻相を調査する目的で海藻を採取して押し葉標本を作製し、同定を行った。海藻が最も繁茂する春から初夏にかけてさらに調査を継続する予定である。

8．東京大学総合研究博物館所蔵標本(ヤギ類)の再整理(担当：岩瀬)

平成11年9月から東京大学総合研究博物館が所蔵しているヤギ類の標本(明治時代のもの)を再整理している。平成13年度は5月に東京で作業を行い、212標本全てについて記載論文との照合を行い、ラベルを紛失している模式標本を発見した。これを持って東京における全ての作業を終了した。今後は借用した標本について同定の再検討を行い、目録及び再検討結果を論文として発表する予定。

9．京都大学瀬戸臨海実験所所蔵標本(ヤギ類)の再整理(担当：岩瀬)

平成11年11月から京都大学瀬戸臨海実験所が所蔵しているヤギ類の標本(多くは昭和期前半のもの)を再整理している。平成13年度は2月に作業を行い、46標本について保存液の交換、ラベルの書き換え、データのデジタル化等の保存措置を行った。残り標本数は約250で、再整理が終了するには今後2～3年程度かかるものと思われる。

10．学会等への参加

- ・日本サンゴ礁学会第4回大会：11月2～4日：於 沖縄県琉球大学
「高知県大月町に開所した黒潮生物研究所の紹介」中地：口演発表
- ・第12回日本ウミガメ会議：11月16～18日：於 宮崎県高鍋町
「幡多地域の海岸環境とウミガメの上陸・産卵状況」田中：口演発表
「高知県大月町に開所した黒潮生物研究所の紹介」岩瀬：口演発表
「鹿児島県吹上浜のクロマツ海岸林衰退がアカウミガメの上陸・産卵に及ぼす影響」田中：ポスター発表

【広報・啓蒙活動】

1．機関誌 CURRENT の発行

当初の予定通り4, 7, 10, 1月に機関誌 CURRENT を発行した。6号(10月25日発行：Vol.

2, No. 3) では、はじめて外部の方に原稿を依頼した。平成13年1月現在、無料配布分約120部、有料購読者分約10部、合計約130部を配布している。

2．財団ホームページの運営

研究所開所に伴い、財団のホームページ < <http://www.kuroshio.or.jp> > に研究所の施設・設備の写真などを掲載した「研究所紹介」のページを充実させた。外来研究者の受入に関するアナウンスなども行っている。

3．研究所紹介ビデオの制作

NHK がニュース用に撮影した映像と財団で独自に撮影した映像から、サンゴの増殖に関する研究所の取り組みを「サンゴの増殖技術確立に向けて」「クシハダミドリイシの産卵から着生まで」の2本のビデオにまとめた。編集は、東京の制作会社「メディアクラフト」の協力を得て行った。

研究所完成後は、コンピュータによるビデオ編集が可能になったので、研究所周辺の海中景観や自然環境、施設や設備の様子など、デジタルビデオで撮影した映像をパソコン上で編集し、約14分の「黒潮生物研究所の紹介」を制作した。

これらのビデオは財団の活動を紹介するために上映会や依頼講演等で上映した。

4．ビデオ上映会の開催

研究所の目的や活動内容を地域住民に理解してもらうために、周辺の住民を招き、11月24日に研究所レクチャールームでビデオの上映会を行った。上映したビデオは「黒潮生物研究所の紹介」と「サンゴの増殖技術確立に向けて」の2本。西泊、檜の浦の住民50人ほどが参加。上映後は施設見学や飼育静物の解説も行った。財団の活動がわかりやすく紹介されてよかったと好評を得た。

5．学校教育への協力

学校教育における「総合的な学習の時間」において、当財団の協力を養成する学校が少ない。財団としても児童生徒の環境教育を推進することは趣旨のひとつであり、学校と連携を強めて大いに協力することとしている。平成13年度は大月町立檜西小学校、大月町立姫ノ井小学校、土佐清水市立貝の川小学校、土佐清水市立三崎小学校の4校に協力した。詳細は下記のとおり。

- ・ 4月24日：大月町立檜西小学校・姫ノ井小学校合同遠足（今在家）に同行。磯の生き物の話や採集方法の指導（中地）
- ・ 5月24日：大月町立檜西小学校。授業「檜西の海」（中地）
- ・ 6月12日：土佐清水市立三崎小学校。講演「桜浜で産卵したアカウミガメの話」（田中）
- ・ 6月28日：土佐清水市立貝の川小学校。授業「貝の川の定置網で混獲されたアオウミガメの標識放流」（田中）
- ・ 7月 2日：大月町立檜西小学校。野外活動「海岸の生物観察と海水浴」（中地）
- ・ 12月13日：大月町立檜西小学校。授業「サンゴとはどんな生き物か」「探してみようこの生き物」「地方名と和名について」（中地）

6．その他講演会等への協力

- ・ 7月14日：竜串ボランティアグループ研修会。「クラゲの話」（岩瀬）

- ・ 9月29日：第10回黒潮実感センター海洋セミナー大月。「サンゴの害敵駆除について～事例報告から」(岩瀬)
- ・ 12月20日：宿毛ロータリークラブ例会。「研究所の紹介」(中地)
- ・ 3月10日：竜串ダイビング協議会講演会。「サンゴの一生」(岩瀬)

7. パンフレットの制作

研究所の活動内容や施設、設備の概略をまとめた A4三つ折りのパンフレットを制作した。

8. 財団年報の発行

7月3日に「平成12年度財団法人黒潮生物研究財団年報」を発行した。

9. マスコミへの対応

- ・ 高知放送 (TV)

高知放送から「新しい研究所の紹介」をメインにした取材があり、11月7日夕刻、「こうち NOW」という報道番組中の「えこ Eco 探検隊」というコーナーで、「海の環境」と題して約6分間にわたって放映された。

【委託・請負業務】

研究所竣工後は財団の本拠を研究所に移し、研究活動を展開すると共に、行政からの委託・請負業務の獲得にも力を入れた。その結果、平成13年度中に下記の事業について契約もしくは受注し、実施した。

1. 平成13年度竜串海中公園地区の保全活用に伴う竜串集団施設地区の管理方針検討調査
 発注者：環境省から(財)海中公園センターに発注。海中公園センターから海域における調査部分が当財団に発注された。
 受注者：財団法人 黒潮生物研究財団
 受注金額：1,398,600円
 内容：竜串海域の海底地形・底質・サンゴ分布図の作成、大型表在性底生動物生息調査、堆積物調査、浮遊懸濁物調査
2. サンゴ移植事業
 発注者：宇和海海中資源保護対策協議会
 受注者：財団法人 黒潮生物研究財団
 受注金額：655,000円
 内容：愛媛県西海町の宇和海海中公園地区へのサンゴ移植指導及び事後調査
3. 足摺宇和海国立公園グリーンワーカー事業(尻貝海中公園地区泥除去作業)
 発注者：環境省
 受注者：財団法人 黒潮生物研究財団
 受注金額：2,500,000円
 内容：9月6日の高知県西南部水害で尻貝海中公園地区内に多量に流入・堆積した泥土を、水中ポンプを用いて陸揚げし、沈殿槽と濾過槽を用いて脱水、除去した。
4. その他
 - ・ 高知県夜須町手結の工事現場からウミガメの孵化幼体が発見されたことに伴う孵化調査および工事計画見直しのための指導

高知国体の開催に伴う砂浜の工事現場からウミガメの孵化幼体が発見されたため、工事を一時中断し、高知県環境保全課から調査を行うよう依頼された。中地及び田中が現地に出向き、孵化状況とウミガメの産卵場としての環境を調べた。調査の結果から、ウミガメの上陸・産卵に与える工事の影響ができるだけ少なくなるように、工事計画の一部が見直され、ウミガメが産卵可能な環境が維持された。

・足摺宇和海国立公園グリーンワーカー事業（竜串海中公園見残し地区泥除去作業）監視員
9月6日の高知県西南部水害で竜串海中公園見残し地区内に多量に流入・堆積した泥土を、バキュームポンプとバージ船で除去する工事が、環境相から（株）西村組に発注された。環境相土佐清水自然保護官事務所から、作業が環境に配慮された適切に行われているかどうか監視して欲しいと依頼され、岩瀬及び林が対応した。

平成13年度業績

【著 作】

財団和文機関誌「CURRENT」

Vol. 2, No. 1 (通巻4号) 2001年4月25日発行

- ・サンゴ学入門(2) サンゴに関わるいろいろな言葉：岩瀬文人
- ・大月町西泊に「黒潮生物研究所」着工
- ・シウラの浜で磯遊び：中地シュウ
- ・砂浜で思ったこと：田中幸記
- ・トピック・高知県大月町でジンガサウニ発見：中地シュウ

Vol. 2, No. 2 (通巻5号) 2001年7月25日発行

- ・檜西海岸のヒメアサリについて：中地シュウ
- ・黒潮生物研究所の生物飼育室について：林 徹
- ・サンゴ学入門(3) サンゴの一生：岩瀬文人
- ・漁港へ行こう

Vol. 2, No. 3 (通巻6号) 2001年10月25日発行

- ・足摺宇和海国立公園尻貝海中公園地区における、高知県西南部豪雨での被害報告
：足摺宇和海国立公園大月地区パークボランティア 町田邦彦
- ・アカウミガメ、手結の浜にあらわる！：田中幸記
- ・黒潮生物研究所の紹介：中地シュウ
- ・お月山から降りてきたサソリモドキ

Vol. 2, No. 4 (通巻7号) 2002年1月25日発行

- ・サンゴ学入門(4) サンゴの体の仕組み：岩瀬文人
- ・黒潮生物研究所の生物飼育室について その2 - 陽のあたる水槽 - : 林 徹
- ・幡多 Botanizing (1) はじめに：田中幸記
- ・海のたより山のたより
- ・海藻の冬

その他

- ・岩瀬文人, 2001.02, ANTHOZOOLOGIA(77)八放サンゴ類 その8, マリンパピリオン(串本海中公園センター), 30(2): 2 - 3
- ・岩瀬文人, 2001.10, 黒潮生物研究所の開設, 海中公園情報(財団法人海中公園センター), (133): 12 - 15

【講 演】

- ・日本サンゴ礁学会第4回大会：11月2～4日：沖縄・琉球大学
「高知県大月町に開所した黒潮生物研究所の紹介」(中地：口演発表)
- ・第12回日本ウミガメ会議：11月16～18日：於 宮崎県高鍋町
「幡多地域の海岸環境とウミガメの上陸・産卵状況」(田中：口演発表)
「高知県大月町に開所した黒潮生物研究所の紹介」(岩瀬：口演発表)
「鹿児島県吹上浜のクロマツ海岸林衰退がアカウミガメの上陸・産卵に及ぼす影響」
(田中：ポスター発表)

- ・岩瀬文人 2001.07.14,クラゲの話,竜串ボランティアグループ研修会,(高知・土佐清水市):依頼講演
- ・岩瀬文人 2001.09.29,サンゴの害敵駆除について ~事例報告~,第10回黒潮実感センター海洋セミナー大月,(高知・大月町):依頼講演
- ・中地シュウ 2001.12.20,研究所の紹介,宿毛ロータリークラブ例会,(高知・宿毛市):依頼講演
- ・岩瀬文人 2002.03.10,サンゴの一生,竜串ダイビング協議会講演会,(高知・土佐清水市):依頼講演